神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

On extended uses of 'in' : bleaching of its enveloping function

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 1998-11-30
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 村田, 純一, Murata, Junichi
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1665

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

IN の拡張的用法について
――容器性の希薄化――

村　田　純　一

1. はじめに

英語の前置詞 in は他の多くの前置詞と同様に空間的な意味から時間的意味さらにはより抽象的な意味を表すように意味の拡張が行われてきていると言われる。そしてその原義とされる容器性は拡張的な種々の意味においても多かれ少なかれ保持されているとされる。しかしながら，拡張的な意味の中にも容器性が濃厚なものからかなり希薄なものまで様々な段階があることは直観的に否定できないのではなかろうか。

本研究では in の用法の中で特にその容器性の意味合いが希薄な用法について考察し，従来から in の用法の中で容器性では捉えにくい例についての解決を試みる。そのため，in の容器性を喚起する役割の希薄性を示すいくつかの証拠をあげ，そしてその場合 in のもつ意味あるいは機能が何であるかについて一つの提案を行う。

2. in の用法の分類

2.1. in の空間的用法

in の拡張的用法を考察する前にその原型となる空間的用法について明らかにする必要があろう。Cuyckens (1993) はオランダ語の空間的用法の in について，認知言語学の枠組み，すなわち一般的に言葉の意味には人間が世界をどのように認識し，概念化するかが反映されるという立場，において論じており，これは英語の in についても大体において当てはまる分析と言える。結論として，「in は（'x in y' という形式の中で，）x と，実体 y と関連

する‘medium’という空間的形態（spatial configuration）との間のCOINCIDENCEの関係を語彙化する（p.44)」として以下のような定式化を提案している。

IN（x,y）＝ COINCIDENCE（x, medium（y））

ここでいう，mediumとはHawkins（1985）で導入された概念で，定義は“a condition, atmosphere in which something may function or flourish”（何かが機能あるいは活動する状況，環境）とし，COINCIDENCEについては明確な定義はされていないが，項xと項yが同所に共存することと考えられる。

この定式化は確かにinの空間的な用法に関して，これまでの議論（Leech 1969, Miller and Johnson-Laird 1976, Vandeloise 1986）における，容器性（CONTAINMENT），包括性（ENCLOSURE），包含性（INCLUSION）のような関係概念では説明できなかった例，すなわちxとyとの関係は必ずしもxが完全にyの内部に入っていないような例を，mediumという概念を導入することでうまく説明していると言える。しかしながら，この定式化はinの空間的用法の説明の一部修正をしているのであって，inの基本的な概念化は大きく変わっているとは言えない。結局のところxとyの関係は基本的に包含関係であり，yは程度の差こそあれ，容器性を持っていると言える。

それでは次にこのようなinの空間的用法の概念化が拡張的用法においてどのような関わりを持っているのかを考えていくことにする。

2.2. inの拡張的用法

2.2.1. 辞書の扱い

一般的に，inの用法は空間の用法から拡張的な用法，すなわち，時間・状態・形状・着用・観点などの用法が細分化されている。本論では時間の用法を除く用法について考察する。たとえばOALD（1995）では以下の通りである。

7. (indicating the state or condition of sb/sth):
I'm in love! ●His things were in order/in a complete mess. ●The house is in good repair. ●He was in a rage. ●I'm in a hurry ●It was said in anger/in fun. ●The apple trees are in blossom. ●My son is in his early thirties.
8. (a) (indicating sb's occupation)
He's in the army/navy/air force. ●She is in business/insurance/computers/journalism. ●He's been in politics (is a politician) for twenty years.
(b) (indicating what sb is doing or what is happening at a particular time): In (ie While) attempting to save the child from drowning, she nearly lost her own life. ●In all the commotion I forgot to tell her the news.
9. involved in sth; taking part in sth: be in a play/concert ●run in the 100 meters.
10. forming the whole or part of sth; contained within sth: There are 31 days in May. ●all the paintings in the collection/in the exhibition ● I recognize his father in him (ie His character is partly similar to his father's)
11. (indicating form, shape, arrangement or quantities):
a novel in three parts ●stand in groups ●sit in rows ●She has her hair in a pony-tail. ●Roll it up in a ball. ●Tourists que in (their) thousands to see the tomb
12. (indicating the medium, means, materials, etc used):
speak in English ●write a message in code ●notes written in biro/ink/pen/pencil ●printed in italics/capitals ●summarize one's ideas in a few words ●speak in a loud voice ●pay in cash (compare:by check) ●see oneself in the mirror
13. with reference to sth; with regards to sth: He's behind the others in reading but a long way ahead in maths ●be lacking in courage ●a country rich in minerals ●three feet in length/depth/diameter ●He is blind in one eye.
14. (used to introduce the name of a person who has a particular characteristic):

We have lost a first-rate teacher in Jim Parks.

15. (indicating a rate or proportion):

a slope/gradient of one in five ●taxed at the rate of 15p in the pound

●One in ten said they preferred their old brand of margarine

IDM in that for the reason that; because:

Privatization is said to be beneficial, in that it promotes competition.

本稿で取り上げるのは11（形状），12（手段），13（方面），などの中に含まれているような空間的用法からの意味拡張では直観的に捉えにくい表現である。さらに以下のような表現もあげることができよう。

He cut the cake in half/two.

He didn't die in vain.

His efforts resulted/ended in success.

これらの例では，2.1で考察した空間的用法において見られたような，x と y との間の包含関係や容器性の存在を認めることはやや無理な説明ではなかろうか。それではこのような in の拡張的用法が認知意味論の枠組みでどのように扱われているかを見ていくことにする。

2.2.2. Johnson & Lakoff 1980; Lakoff 1993

in の拡張的な用法の多くは認知意味論の枠組み（Johnson & Lakoff 1980; Lakoff 1993）では in に後続する名詞句などがメタファーの働きによって容器（container）や場所（location）として概念化されるとして説明される。

たとえば視界（visual field），出来事（event），活動（activities），状態（states）はメタファーによって容器（container）に見なされることから以下のような表現が存在すると説明する（Lakoff 1980, p31）。

I have him in sight.

Are you in the race on Sunday?

In washing the window, I splashed water all over the floor.

There is a lot of satisfaction in washing windows.

He's in love.

Lakoff (1993)では状態をcontainer（容器）ではなくlocation（場所）という概念を用いて以下のような例を説明しているが，考え方の基本は大きくは変わらず，空間的な概念化をメタファーの働きによって抽象的な概念化に投射されたものとしてとらえている。

I'm in trouble.

しかしながら以上の説明には問題点が残る。第一に，どのような概念が容器性や場所性を持つのかの限定がされていないことを指摘できる。上で挙げられているように，視界（visual field），出来事（event），活動（activities），状態（states）が容器性を持つといっても，それら全ての概念が一様に容器性を持つとは考えにくい。例えば，村田（1989）では状態の一種である感情やその他の状態を表す名詞の中にも以下の例が示すように容器性に強弱があることを突き止めている。

He is in love.

*He is in hatred/surprise/happiness.

また，2.2.1で問題とした表現，すなわち，11（形状），12（手段），13（方面）ついては特に言及がないことも指摘できる。inが用いられている以上，これらも容器性で説明することになるのであろうか。それともそれらの表現は容器性で説明しにくいという理由であえて言及していないということも推測できる。

2.2.3. Dirven（1993）の意味分類

Dirven（1993）は認知意味論の考え方を基本にして，at, on, inなどの前置詞の基本的な空間的概念化が“mental space”に投射され様々な概念的ドメイン，すなわちtime, state, area, manner/means, circumstance,

cause/reason などをカバーする意味の鎖を形成するとし，主な前置詞について，個々にそれぞれその意味のつながりを検討している。そして，in に関しては「enclosure（包括性）という概念が in despair などにおける心理的状態や in search of などにおける活動的状態に拡張される。area（分野）の概念は specialise in のような活動的分野や rich in のようなテーマ的分野になりうる。また英語は全ての種類の状態を enclosing experiences（包括性をもつ経験）としてカテゴリー化し，それが manner（様態）や means（手段）あるいは circumstance（環境）や cause（原因）までも表すがこれらの表現自体は単に "enveloping（包含的）" 状態を示していて，それ以上の特定化は与えられたコンテクストの中で生じる。(p.79)」としている。そしてこれらをまとめた以下のような図を示している。

＊in の拡張の放射状ネットワーク（Radial network of extensions of *in*）

(e) means

↑

(d) area ← (a) spatial enclosure → (b) time-span

↓

(c) state as enclosure

↓

(e) manner as state

↓

(f) circumstance as state

↓

(g) cause as state

ここで注意すべきことは，図からも明らかのように manner，circumstance，

cause を enveloping state と捉えて spatial enclosure から下へのつながりを示しているのに対して，area と means は別の方向へと延びている点である。これが何を意味するのかについての言及はないが，area と means が spatial enclosure との近接性を持っていることを表しているか，あるいは他の用法との異質性を表していると考えられる。また，spatial enclosure から下へ延びている意味のつながりは段階性・発展性を表していると思われるが，それに関する詳しい考察はされていない。より厳密な意味拡張の分析が望まれるだろう。

つぎに，Dirven は以下のように様々な前置詞が表す意味をいくつかに整理し，同じ意味グループの中における前置詞の差を論じている。その中で in についてはいずれの意味の場合も enveloping factor が働くとしている。

(a) state

at: at work/rest/sleep/work/play/prayer/war/lunch

on: on display/show/sale/hire/trial/guard/duty

in: in despair/sorrow/love/fun/search of/demand

under: under arrest/repair/control/fire/pressure

(d) area

at: good/bad/clever/an expert/adept at

on: concentrate/meditate/an expert/lecture/a book/a summit/a report/a comment on

in: specialise/rich/low/poor/lacking in

by: a lawyer by profession

with: deal/busy/familiar/be engaged with

about: think/doubt/speak/say sth./talk/a book about

over: debate/a controversy/a dispute/quarrel/argue over

of: speak/think/remind/know/dream/read of

(e)manner/means

at: at full speed, at the top of his voice

on: dine on snacks, drunk on whisky, on foot, on horseback

in: in agreement, in a low voice, write in ink/pencil

by: by train/bike/car/air/sea

with: with precision/care/passion;with a key/a pen

through: funded through our budget, obtain sth. through the post

(f) circumstance

at: at these words (he left)

on: on arrival, on his death, on my return, on receipt, on the condition that, on the pretext that

in: (he smoked) in silence

by: by accident, (catch) by surprise, by such bad weather

with: (I can't do it) with everybody laughing; with the door wide open, the bugs can get in

under: under these circumstances, under the premise

(g) cause/reason

at: laugh at, irritation at, angry at

on: congratulate on, compliment on, pride oneself on

in: delight in, rejoice in, exult/triumph/revel in

by: surprised by, a book by

with: tremble with fear, hair grey with age, pleased with, besides himself with, blush with pleasure, blind with passion, white with anger

through: killed through accidents

about: excited/crazy/angry/unhappy about

over: argue over, fight over, hesitant over

under: suffer under a regime

from: die from drugs

of: die of cancer out

out of: kill sb. out of despair

以上のようにDirvenの主張は，inについては拡張的な意味の場合もenveloping factorが働くということで，それは基本的に，Lakoffの容器性と同様の概念といってよい。

2.2.3.1. 問題点

以上の分類にはいくつかの問題点が指摘できる。ここでは特にinとの関

連に焦点を絞り検討を加えることにする。

第一に，それぞれの前置詞について挙げられている例は必ずしも，その前置詞に限定されるのではなく，他の前置詞，特に in によって意味をほとんど変えずに言い換えられる場合が多い点である。この事実が指し示すのは in がより一般的に用いられるということである。以下に例をあげる。

State:

at: at work/in work, at play/in play, at war/in war

on: on/in display

under: under/in control,

Area:

at: good/bad/clever/an expert/adept at/in,

on: lecture(v) on/in

with: be engaged with/in

Manner:

with: with/in passion

Circumstance:

by: by/in such bad weather

under: under/in these circumstances, under/in the premise

Cause and reason:

through: killed through/in accidents

Dirven の第二の問題点は in の用法の中で，いくつかの用法が除外されていることである。例えば，上記の OALD の13の用法すなわち，in respect to, in terms of, などを表す用法の中で以下に示す用法が検討されていない。この用法は多くが定型表現に現れるため，検討から除外したのかも知れないが以下のようにかなり多くの表現が存在し，in の用法を論じる上で決して無視すべきではないと思われる。[(1)]

in length/depth/height/width/strength/weight/population/area

in quality/amount/number/size/speed/temperature/performance

in shape/style/meaning/content/color/appearance/taste/price/cost

in character/personality/ability/capacity/intelligence/education

in detail/brief/short/total/all/sum/(large) part/degree/extent

in general/in reality/in theory/in practice/in principle/in fact

in the case of/in a sense

in every respect/way (=completely, entirely)

また，OALD の11に相当する形状を表す用法や，OALD では特に分類していないが他の辞書では一般に分類している以下のような色の用法がやはり Dirven では扱われていない。

I'm looking for a suit in pale grey.

The new Nissan Micra comes in blue, bright red, black or white. —CEED

以上のように Dirven の分類法は少なくとも in に関する限り十分な検討がなされていないと言える。以下では Dirven の議論の中で直接扱われていない in の用法などの特徴を吟味しながら，容器性の段階に踏み込んで議論を進めることにする。

3. In の容器性の希薄化[2]

in の拡張的な用法について Dirven の分類を検討したが，Dirven は in には常に，enveloping factor が関係しており，それが他の前置詞との違いとなっていると論じている。この主張は確かに正しいと認めるとしても，in の拡張的用法の中にもその enveloping，あるいは容器性という概念に段階性があることも否定できないはずである。そして，in に仮に段階性が存在するとした場合，2.2.1で問題とした表現はinの容器性が希薄になっている場合と想定できる。以下では in の拡張的用法の中で容器性が希薄になっていることが原因と思われる現象をいくつか見て行くことにする。

3.1. 意味が希薄が故に省略がおこる場合

容器性が希薄になっていることを表す一つの証拠としてはinの省略がおこる現象があげられる。すなわち，inが本来持っているはずの容器性を喚起する役割が必要とされず，省略しても文の意味に支障が無い場合には当然省略が起こると考えられるからである。以下ではarea（respect），manner（medium）の順で例をあげる。

1）area（respect）

この用法では以下のようにinに後続する句の種類によってさらに，4つに分類することができる。

a）動名詞が後続する例

この分類には以下のように多くの定型表現が見られる。

be busy (in)__ing, busy oneself (in)__ing, be careful (in) __ing

have trouble/difficulty (in)__ing, spend/waste time (in)__ing

There is no use/point (in)__ing[3]

There is no sense (in)__ing

b）that節が後続する例

多くの形容詞の中にはthat節を後続させるものがあるが，その中には以下のようにinをthat節の前に置いてもほとんど意味に差がない場合がある。[4]

fortunate/lucky (in) that...

I'm fortunate in that I'm trained to help. —BNC

You're fortunate that you've still got a job. —LDOCE

I was lucky in that we were able to spend time away from Berlin. —BNC

She's lucky that nobody has eaten it. —BNC

c) in に名詞句が後続する例

この分類に属するものは今のところあまり多くは見つかっていないが，以下のような例が挙げられる。この場合，in が省略されると動詞は自動詞から他動詞の機能を果たすことになるが意味的には大きな違いがないというインフォーマントの指摘を得ている。[5]

He failed (in) the test.

He is lacking (in) courage.

Alf made strenuous efforts to improve, especially in his reading.

Once behind their peers they need individual attention to improve their reading. —BNC

You are certainly improving in your spelling. —Crowell, [前置詞活用辞典]

d) 分詞構文

以下のような分詞構文の場合に in が分詞に先行しても意味がほとんど変わらないことがよくある。これを in の省略と断言できないまでも，in の本来の容器性が薄れている例といって差し支えないだろう。

(In) washing the window, I splashed water all over the floor.

(In) reading the paper, I found three spelling errors.

2) manner, medium, color

ここでは，様態，手段，色などを表す in が省略される例を見る。

a) way など

way は以下に示すように this, that などを伴う場合に省略されることはよく知られている。[6]

Do it this way.

He thought he could win the game that way.

また，それ以外の場合にも以下のように省略が起こる。

They played the game (in) a different way. —Quirk.

He walked slowly, (in) the way he always does. —ibid.

She danced (in) the same way as I do. —ibid.

(in) one way or another —Genius

さらに，style や single file も in が省略される場合がある。

They cook ((in) the) French style. —Quirk.

walking single file[(7)] —CIDE

b) paint ____ (in) ＋色

動詞 paint は一般に第 5 文型をとり，補語の位置に色がくる場合は前置詞が不要であるが，以下のように，in が生じる場合がある。これも in が表す本来の意味が希薄になっている証拠として挙げることができよう。

The walls were painted in blue. —新編英和活用大辞典

I remember he made a great big rocking-horse for Hilary, and painted it in all sorts of marvellous colours. —BNC

I went to the wall painted (in) red.

c) speak (in) ＋言語

この例では，in が生じるか生じないかで動詞が自動詞から他動詞に変わるがやはり意味的には大きな違いは無いと言える。

You should speak (in) English here.

d) turn/change into/to, turn/change __ into/to

以下の例では 文の意味をほとんど変えることなく into と to を用いることができる。ここにも in の意味の希薄性が示されていると言える。

Caterpillars change into/to butterflies or moths.

Water turns into/to ice when it freezes.

War had changed him from a boy into/to a man.

The experience has turned him into/to a sad and bitter man.

e) make somebody (into) something

この例は in と意味的に近接している into が省略される例である。

makeは5文型をとるがこの例のように‘into’を入れてもほとんど意味に変わりがない。

She made him (into) a good husband.

3.2. その他の証拠

以上のようにinの希薄性を示す証拠として，inが省略される多くの例を見てきたが，以下ではさらにinの希薄性を示すと思われるその他の事実を見ていくことにする。

3.2.1. 他の前置詞と交換可能なin

inの本来持っている容器性の意味が希薄であるということは意味が曖昧あるいは無標ということで，これは他の前置詞の代わりに用いられることが多いという事実によって示されると言えよう。このことはすでに2.2.3.1.で見たが，以下のような例を付け加えることができる。

at/in: at/in the beginning of, at/in the end of

by/in: by/in virtue of, by/in comparison with

for/in: for/in fear of, for/in want of, for/in lack of, for/in the benefit of

on/in: on/in behalf of, on/in the matter of

to/in: to/in some degree

under/in: under/in the influence of, under/in the (no) circumstances

with/in: with/in respect to (in respect of), with/in regard to, with/in relation to, with/in reference to be disappointed with/at/in

of/in: What is the sense of /in ____ing ?

What's the sense of/in learning Latin? —Genius

3.2.2. in の汎用性

in は前置詞の中で，以下のような前置詞＋名詞＋前置詞の構造をもつ複合前置詞句の最初の要素になることが非常に多いことも指摘できる。この事実もinの無標性が高いことを間接的に示していると言えよう。

in aid of, in back of, in behalf of, in case of, in charge of,
in consequence of, in the face of, in favor of, in front of,
in light of, in lieu of, in need of, in place of, in the process of,
in quest of, in respect of, in search of, in spite of, in view of
in accordance with, in common with, in comparison with,
in compliance with, in conformity with, in contact with, in line with
in exchange for, in return for,
in addition to, in relation to, in ragard to, in reference to, in respect to

in 以外の前置詞の例としては以下のようなものがあるが in の場合に比べてはるかに数が少ない。

at variance with, at the expense of, at the hands of, by dint of, by means of, by virtue of, by way of, for the sake of, for/from want of, on account of, on behalf of, on (the) ground(s) of, on the matter of, on pain of, on the part of, on the strength of, on top of

3.2.3. 後続名詞の冠詞省略

以下のように in の後の名詞は冠詞が省略されることが多いが，これも in の抽象性が高いことを示していると言えよう。[8]

in pen, in pencil (cf. with a pen, with a pencil),
stand/wait in (a) line,[9] in (large) part, in person, in theory,
in principle, in fact, in price, in cost

3.2.4. 副詞への書き換え

'in + noun' という構造を持つ多くの前置詞句が以下のように副詞に書き換えられる場合が多いという事実もinの本来持っている容器性，場所性が希薄になっている間接的な証拠として挙げることができよう。

in a kind manner/kindly, in addition/additionally, in full/fully, in total/totally, in brief/briefly, in general/generally, in theory/theoretically, in quality/qualitatively, in quantity/quantitatively, in person/personally, in private/privately, in public/publicly, in the negative/negatively, in the affirmative/affirmatively, in succession/successively

3.3. 仮説

以上のようにinの拡張的用法の多くが本来の容器性，場所性が希薄になっていることの証拠と思われる現象を見てきた。それらの多くの用法はarea (respect), manner, medium, colorに相当するものである。勿論，議論の進め方として，同様の現象が本来の容器性，場所性が強い用法において見られるかどうかを確かめる必要がある。今のところ詳細な調査は行ってはいないが，空間的な用法に関する限り同様な現象はほとんど見られない。また時間的な用法については，小西（1976）が指摘するように省略が起こるいくつかの例が見られるが，時間的用法も拡張的用法であることを考えると本稿の主張を裏付ける証拠とも言えよう。

それではinの容器性を喚起する働きが希薄な場合のinの役割とは何であろうか。これは断定することはできないが，inによって最終的に保証される役割は，「単なるカテゴリや範囲の指定を示すこと」という仮説を提案したい。すなわち，頭の中に一種の分類表のような物を思い浮かべ，その中のどこの部分に入るかを指定する役割と考えられる。分類表というとこれも一種の容器とも言えるが，この場合には，[x in y] の関係の中でyが表す実

体としての容器ではなく，抽象性の高い概念として頭の中に描く容器であって，そこでは無理に空間的イメージを喚起することは必要とはならない。そして，このように考えることによって，2.2.1で問題とした表現における［x in y］の関係で，たとえばwrite in penという表現のpenを無理に空間的な実体としての容器として概念化せずに理解することが可能となる。

4. まとめと今後の課題

本稿ではinの拡張的な用法の多くにおいて，inの本来の役割である容器性・場所性を喚起する機能が希薄化していることを，inの省略などの現象から確かめた。そしてその場合のinの役割は単にカテゴリの指定であるという考えを提案した。これによってinの容器性ではうまく説明できなかった，medium, respect, form, colorなどの用法が無理なく説明できると思われる。

残された課題としては本論で提案した「単なるカテゴリ指定」というやや曖昧さの残るinの役割をより精密化することや，それに関連してinの汎用性の仕組み，歴史的・通時的な観点からの考察，さらには拡張的用法の様々な意味，たとえば，「状態」，「様態」，「手段」，「形状」などが生じる仕組みなどを明らかにしていくことが挙げられるだろう。これらの課題の多くはinとその前後の語句の関係や，inに先行される前置詞句の文の中における機能をより精密に分析することによって解明されるであろう。

注

(1) 勿論，この用法はDirvenのAreaに入れることも考えられる。実際OALDではこの用法はDirvenのAreaの分類の中のrich in, lacking inと同類の用法として扱っており，両者をまとめることは可能である。ただし，DirvenのAreaの分類の特徴として，前置詞に先行する動詞や形容詞との関係が強いことに対して，上記の用法は前置詞に後続する名詞との関係が強いという特徴がある点に注意を要する。

(2) 希薄化とは通時的な変化を表すというより，共時的意味での希薄化である。すなわち，拡張

的な用法ではinの容器性が薄れているという意味である。

(3) この省略については一般の辞書では記述されていないようであるが，実例として次の例が見つかっている。There is no point lying to me. —D. Koontz, *Intensity*,

(4) これらの例ではinを用いない場合が一般的とされるが，BNCのコーパスではinが生じる場合と生じない場合との数字を比較するとfortunateで42 : 118, luckyで30 : 98となっており，inが用いられる例は決して少ない数ではない。また，fortunate, luckyに比べると以下のhappy, afraidはinが生じることは極まれでそれぞれ一例がBNCから見つかっている。

happy/afraid (in) that

I was happy in that I felt that I had paid him back a little for the thousands of hours he had spent.... [BNC]

They were afraid in that some time or another, some of the fellers on the corner had been locked up for obstruction. [BNC]

また，これらの例はDirvenではcauseあるいはreasonに分類されるかもしれない。

(5) 同様の例としてはI certainly don't deal (in) drugs.—COBがあげられる。この場合inが省略されると特に麻薬の売買を意味する。また，participate inもまれではあるがinが省略される場合がある。さらにこれに関連して，teachは二重目的語の構造で直接目的語には前置詞は必要ないが類義語であるeducate, coach, instruct, trainなどではinが生じることをあげておく。

teach someone something

educate someone in how to do

coach/instruct someone in something

(6) ただし，この場合はthisやthatが直示表現であるという理由によるのであって，時を示すinにおいても同様の省略が起こるとされる。

(7) この用法は空間用法とも言える (cf. 注9)

(8) これはinではなく，後続の名詞の抽象性によるとも考えることができるが，たとえそうだとしてもinが本来持つ容器性を喚起する機能が薄れていると考えられよう。

(9) このような形状を表す用法は空間的用法とも拡張用法ともとれる中間的な用法と言える。すなわち，列 (line) を幅を持つものとして2次元的に捉えると空間的用法と言え，幅を持たない一次元的な捉え方では容器性が弱まった拡張用法と言える。同様の表現でstand in a circleの場合，意味が「円の内部に立つ」と「輪をなして立つ」2通り可能で，前者は明らかに容器性の強い用法で空間的用法であるが，後者は容器性が弱い用法と言える。だだし，後者も輪を2次元的に幅を持つものとして捉えると容器性を喚起する用法とも考えられる。

参 考 文 献

Cuyckens, H. 1993. The Dutch spatial preposition "in": A cognitive-semantic analysis. In Zelinsky-Wibbelt, C. (ed.). *The Semantics of Prepositions*. Berlin・New York: Mouton de Gruyter.

Dirven, R. 1993. Dividing up physical and mental space into conceptual

categories by means of English prepositions. In Zelinsky-Wibbelt, C. (ed.). *The Semantics of Prepositions*. Berlin・New York: Mouton de Gruyter.

Hawkins, W. 1985. *The semantics of English spatial prepositions*. Duisburg: L.A.U.D. paper, no. 142.

Johnson, M. 1987. *The Body in the Mind*: The Bodily Basis of Meaning, Reason and Imagination. Chicago: University of Chicago Press.

小西友七. 1976.『英語の前置詞』大修館.

Lakoff, G. 1993. "The contemporary theory of metaphor". In Ortony, A. (ed) *Metaphor and Thought*. New York: Cambridge University Press.

Lakoff, G. 1987. *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*. Chicago: University of Chicago Press.

Lakoff, G. and Johnson, M. 1980. *Metaphors We Live By*. Chicago: University of Chicago Press.

Leech, G. 1969. *Towards a semantic description of English*. London: Longman.

Miller, G. A., and Johnson-Laird, P. N. 1976. *Language and perception*. Cambridge: Cambridge University Press.

村田純一. 1989.「感情名詞と Container Metaphor」『神戸外大論叢』第40巻 7号.

村田純一. 1990.「「in/out of + 感情を表す名詞」の語法について」『語法研究と英語教育』12号 山口書店.

Quirk, R. et al. 1985. *A comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.

Vandeloise, C. 1986. *L'espace en francais*. Paris: Seuil.